

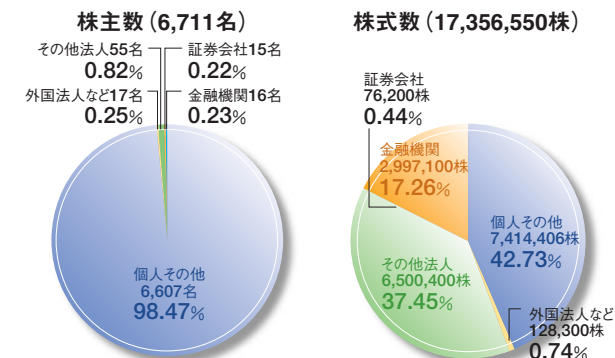
大株主 (平成16年9月30日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
1. 三井物産株式会社	2,800,000	16.13
2. 株式会社小松製作所	1,820,000	10.49
3. 株式会社クボタ	1,200,000	6.91
4. 山村 章	803,400	4.63
5. 日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	427,400	2.46
6. 株式会社東京三菱銀行	420,000	2.42
7. 資産管理サービス 信託銀行株式会社(証券投資信託口)	413,100	2.38
8. 住友信託銀行株式会社	400,000	2.30
9. 日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	282,800	1.63
10. 株式会社北日本銀行	205,500	1.18

株主メモ (平成16年9月30日現在)

決算期	3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	株主確定 3月31日 利益配当金 3月31日
1単元の株式数	100株
名義書換代理人	大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付および電話照会先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(住所変更用紙のご請求)	☎ 0120-175-417
(その他のご照会)	☎ 0120-176-417
同取次所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店

所有者別株式分布状況 (平成16年9月30日現在)



(注) 自己株式240,144株は上記の円グラフなかの株主数・株式数に含まれていません。

FAX送信サービス

株主・投資家のみなさまに、会社案内・決算短信・事業報告書・製品紹介パンフレット・ニュースリリースなどをご要望に応じて提供しております。

FAX送信サービス FAX 03-3281-8078
お問い合わせは、総務部 広報課 TEL 03-3281-8186
FAX 03-3281-8160

Ferro Tec

株式会社 フェローテック

〒104-0031 東京都中央区京橋1-4-14
TEL 03-3281-8808 FAX 03-3281-8848
URL <http://www.ferrotec.co.jp>

フェローテックは環境方針に基づき環境保全活動を積極的に推進しています。



第25期 中間事業報告書

平成16年4月1日～平成16年9月30日

Ferro Tec
株式会社 フェローテック

未来への可能性を秘めた先端テクノロジーにいち早く着目し、その応用技術の研鑽に努め、ハイテク産業の進化を支える製品へと結実させていくこと——これが創業以来、変わることのない当社グループのビジネススタイルです。

1980年。当社は、磁界に引き寄せられる唯一の液体材料、磁性流体の応用製品メーカーとして誕生しました。コンピュータのハードディスクドライブに組み込まれる「コンピュータシール」、半導体・液晶製造装置に組み込まれる「真空シール」を開発するとともに、生産供給体制を確立。高い市場シェアを獲得し、磁性流体応用技術のパイオニアとして存在感を発揮しています。

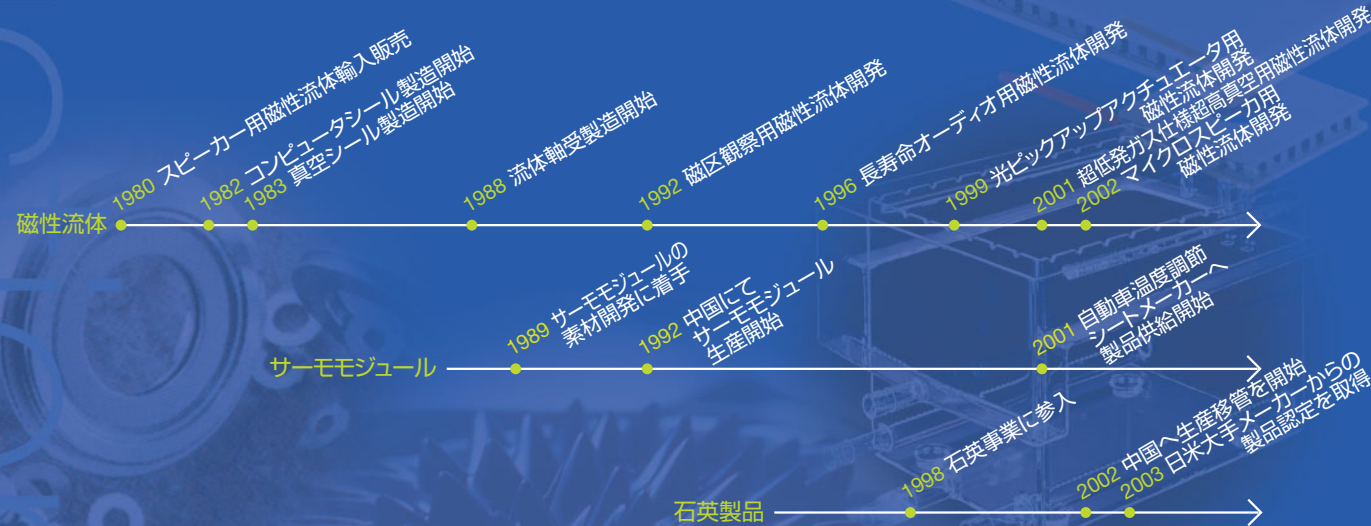
また、精密な温度制御を実現する冷熱半導体素子「サーモジュール」に着目した当社は1989年、その素材開発の

研究を開始。1992年からは生産を始め、現在では自動車や家電、医療、情報通信など幅広い分野で、温度制御を担う重要な部品として採用されています。

さらに、1998年からは石英加工事業に進出。半導体製造工程で利用される石英製品には、高い純度と耐熱性、そして精密な加工技術が求められます。そのため、高品質な原材料調達体制を確立するとともに、高度な石英加工技術を有する生産体制を中国に構築。半導体市場からの需要にえています。

Technology & Manufacturing Companyとして、フェローテックはこれらコアテクノロジーのさらなる研鑽と最適な生産供給体制の構築を通じ、ハイテク産業の進化を支える製品を供給していきます。

ハイテク産業の進化を支える Technology & Manufacturing Company ——フェローテック



TO Our Shareholders

株主のみなさまへ

活況を呈するエレクトロニクス産業で 市場競争力のさらなる拡大をめざしています。

——代表取締役社長 山村 章

当中間期(平成16年4月1日から平成16年9月30日まで)のエレクトロニクス産業界はアテネオリンピックに伴う薄型テレビ・DVDレコーダーなどのデジタル家電需要や、猛暑によるエアコン特需、インターネット配信用新型音楽プレイヤーの市場拡大、一眼レフデジタルカメラやアジア市場におけるカメラ付き携帯電話の普及など好材料に恵まれました。

このような環境のなか、装置関連事業では拡大する中国市場における競争力強化を図るべく、国内の石英製造ラインを中国子会社へ移管し、また、CMS事業ではシリコンウェーハ加工において技術導入および設備搬入を進め本格稼働させたほか、装置部品洗浄においても販路の拡大で成果を上げました。

一方、電子デバイス事業ではハードディスクドライブ業界における流体動圧軸受モーターの採用進展に伴い、「コンピュータシール」の需要減少を見込んでいましたが、同モーターの採用普及の遅れから需要は安定して推移しました。

以上の結果、当中間期の連結業績は、売上高10,783百万円(前年同期比58.0%増)、営業利益1,063百万円(同6,162.5%増)、経常利益940百万円、中間純利益458百万円となりました。

下半期以降は、装置関連事業では石英ガラス加工製品の受注を維持すべく、米国顧客からの製品認定の種類を拡大するほか、「真空シール」においては米国アプライド・フィルムズ社のドイツ法人との独占供給契約の締結、英国アド



バンスト・フルイド・システムズ社の営業権譲受など経営戦略を積極的に展開し、事業拡大に努めていきます。一方、電子デバイス事業の「サーモジュール」は自動車温度調節シート向けだけでなく、他の産業にも広く展開できるよう販売と技術開発に一層の経営資源を注ぎます。CMS事業についても操業度と歩留をさらに向上させ、収益向上に取り組んでいきます。

今後とも、株主のみなさまには、ご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



Core Technology ① 磁性流体

磁性流体応用技術のパイオニアとして、
ハイテク産業に貢献する製品を世界に提供しています。

磁界に反応する唯一の液体材料を応用した ハイテク部品を開発しています。

磁性流体は、無重力空間でポンプを使わず液体燃料を移動させるため、米国航空宇宙局から依頼を受けた当社の元親会社フェローフレイディクス社の創始者が開発しました。

現在知られるなかでは磁界に反応する唯一の液体材料で、磁界による位置の保持や変化が可能。さらに、磁性流体を構成する微粒子は凝集や重力により沈降

することがなく、粘性を有しているのも特長です。こうした特長から、空間内の気密性を確保するシーリング装置や放電・放熱媒体に応用されています。



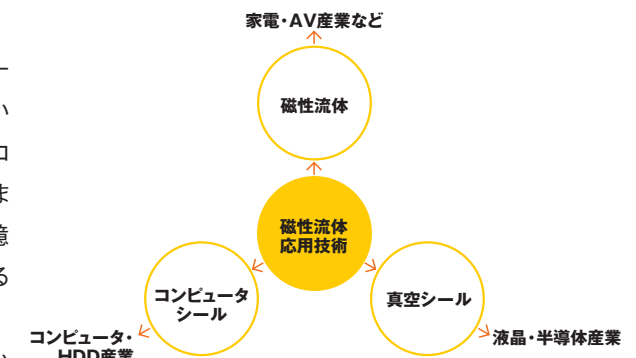
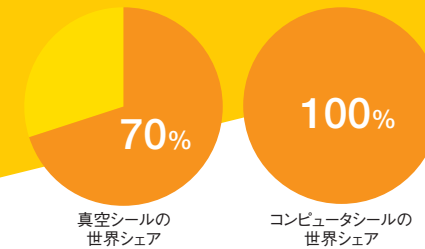
液晶・半導体・コンピュータなど 最先端ハイテク産業の進化を支えています。

磁性流体のシーリング効果を応用した主力製品の一つ「真空シール」は、フラットパネルディスプレイ (FPD) や半導体製造工程で求められる高真空な密閉空間を確保するとともに、密閉空間内にさまざまな運動を伝達させるのに欠かせない製品として、全世界で約70%という高いシェアを有しています。

なかでも、日本国内における地上デジタル放送のスタートや、2008年の北京オリンピックなどを控え、液晶テレビやプラズマテレビの買い換え、買い増しが活発化しており、FPD製造装置向け「真空シール」の需要が拡大しています。さらに、大型・高精度製品の需要拡大も見込まれることから、2004年5月に製造子会社である(株)フェローテック精密の生産体制を増強、活発な需要への対応を進めています。

また、もう一つの磁性流体応用製品「コンピュータシール」の世界シェアは100%で、当社が独占供給しています。この製品は信頼性が求められる高性能大型コンピュータのハードディスクドライブ (HDD) に組み込まれ、内部のモーターから出る塵やゴミを遮断して記憶盤を保護するとともに、モーターの回転により発生する静電気を放電させるための製品です。

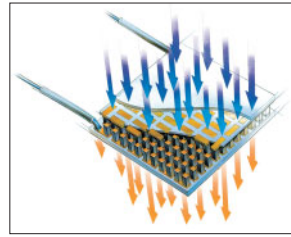
HDDは記憶容量の増大などさらに高性能化していることから、当社グループでは磁性流体技術を活かした新製品の開発も進めています。



「ペルチェ効果」を応用した
温度制御デバイスを開発しています。

「サーモモジュール」は、半導体素子に電流を流すと熱を一方の面から奪い、もう一方の面に放出するという原理（ペルチェ効果）を応用した温度制御デバイスです。

ファンや、冷媒とコンプレッサーなどを組み合わせた温度調節装置に比べ精密な温度コントロールが可能。なお、可動装置がないため静粛性に優れ、小型・軽量という特長を有します。また、オゾン層破壊の原因となるフロンなどの冷媒も必要とせず、地球環境に配慮したデバイスとしても注目されています。



Core Technology ② サーモモジュール

独自のサーモモジュール技術を研鑽し、暮らしや社会に役立つ製品用途開発を追求しています。



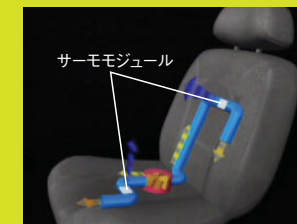
自動車・エレクトロニクス・ライフサイエンス…
次代の産業社会を支えています。

正確な温度コントロールが可能な「サーモモジュール」は、自動車のシートや病院・ホテルなどの冷蔵庫をはじめ、光通信、半導体製造装置、バイオテクノロジーといった産業分野など、幅広い分野にその用途が拡大しています。

とりわけ、近年用途として最も伸びているのが自動車シートの温度調節です。

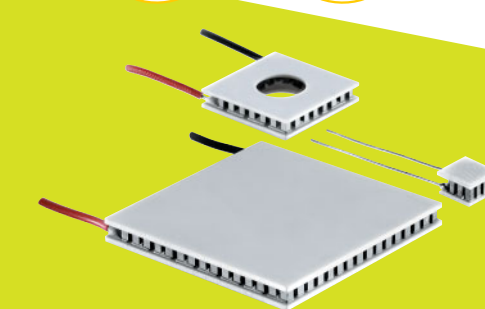
当社グループは米国自動車部品メーカーのアメリカン社が開発した自動車座席用の温度調節装置の一部として「サーモモジュール」を供給しています。すでに、国内外の自動車メーカー5社に採用されており、高級車からSUV（スポーツユーティリティビークル）など多くの車種で搭載が進んでいます。

このように需要が着実に拡大するなか、当社グループではコスト競争力のある高品質な製品を安定的に供給するため、中国子会社での一貫生産体制を確立して



「サーモモジュール」で冷却または加温した空気を、ダクト経由で座席のピンホールから放出。発汗による不快感や寒さを抑え、運転者と同乗者に快適な車内環境を提供します。

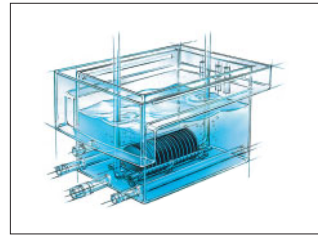
います。中国は原材料となる鉱物の埋蔵量・出荷量がともに多く、生産に関わる人件費も抑えられるため、開発当初より原材料の調達から精錬、半導体素子の製造、製品化まですべての工程を中国子会社で行っています。



高度な精密加工技術を活かした
さまざまな石英ガラス加工製品を提供しています。

石英ガラスは含まれる金属不純物が多いものでも10万個に1個、最も少ないものでは1億個に1個程度と、非常に純度の高い原料です。また、通常のガラスが熱を加えると600～700℃で柔らかくなるのに対し、1,500℃という高い耐熱性を有しています。

当社グループの(株)フェローテッククオーツは、世界的な石英ガラスの供給元であるGEグループから原材料の安定的な供給を受け、自社の高度な精密加工技術を活かし、半導体製造工程で使用されるさまざまな石英ガラス加工製品を提供しています。



半導体製造工程で重要な役割を果たす
石英ガラス加工製品をラインナップしています。

石英ガラスは主にICやLSIをはじめとする半導体製造工程や光ケーブルといった産業分野で使用されています。

半導体の素子形成においては、シリコンに微量な不純物元素を拡散させ、電気特性を変化させる工程や、酸化膜の絶縁体を組み合わせる工程などを、活性ガスのなかで高温処理します。このとき、不要な金属不純物の混入による不良の発生や、活性ガスとの化学反応を防止するため、高温処理に耐える特殊な容器を使用します。

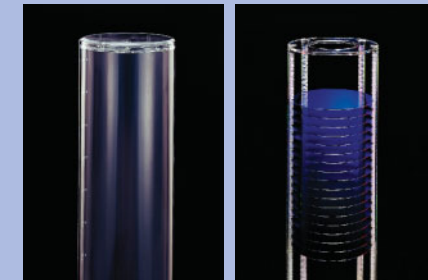
当社グループの(株)フェローテッククオーツでは、この双方の役割を担う製品として、各種炉芯管やボードなど自社の高度な精密加工技術を活かした石英ガラス加工製品を供給しています。

また、生産においては、コストダウンの要求と中国への生産シフトを進める半導体メーカーの需要に応えるべく、中国子会社へ生産体制の移管を推進しています。



角槽

横型ボード



縦型ボード

縦型チューブ



石英ガラス加工製品は中国子会社への生産移管を進めています(写真はガラス施盤作業)。

Core Technology ③
石英ガラス加工

高度な石英ガラス加工技術を活かし、
半導体メーカーのニーズにお応えしています。

米国アプライド・フィルムズ社のドイツ法人と真空シールの独占供給契約を締結

米国の成膜装置メーカー、アプライド・フィルムズ社のドイツ法人アプライド・フィルムズ・ドイツ社と液晶製造関連装置向け真空シールの独占供給契約を締結しました。

アプライド・フィルムズ社の主力製品は液晶ガラス基板の成膜加工に使用する薄膜蒸着装置です。近年、液晶設備投資の急増に伴い液晶パネルメーカーが集中する日本や台湾、韓国、中国で順調に売上を伸ばしており、サービス・メンテナンス需要も増加しています。

こうした安定供給先を確保したことで、当社は半導体製造装置向けに需要が増加している真空シールの一層の売上拡大を見込んでおり、シリコンサイクルに左右されにくい事業体質の構築をさらに進めていきます。



アプライド・フィルムズ社CEOのトーマス・T.エドマン氏と当社代表取締役社長の山村章

英国アドバンスト・フルイド・システムズ社から真空シール事業の営業権を取得

光学・半導体・真空産業向け機能部品のファブレスメーカー、英国アドバンスト・フルイド・システムズ社から真空シール事業の営業権を取得しました。

これにより、今後当社は欧米においてシリコンサイクルの影響を受けにくい真空産業や光学産業などへ真空シールの販売を強化していくとともに、同地域でのリペア拠点の獲得や短納期対応など顧客サービスの向上に努めていきます。

リチウムイオン二次電池「DSK-1」を開発

円筒形リチウムイオン二次電池2本を並列に配置することで、単三形乾電池2本の並列使用やCR-V3タイプのリチウム一次電池との形状互換を実現した電池パックを、当社グループ会社のダイヤセルテック(株)※が世界で初めて開発。リコー製デジタルカメラ「Caplio R1」向けに、中国杭州の生産子会社・杭州菱日科技有限公司で生産を開始しました。



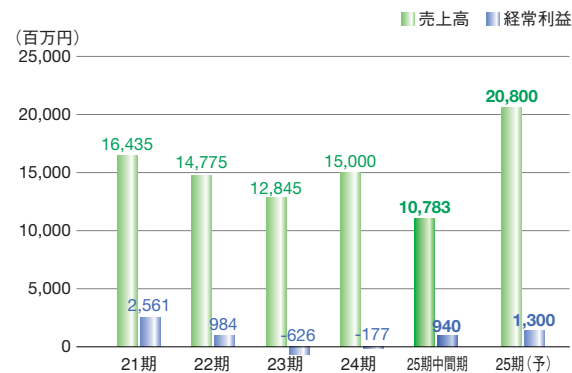
リチウムイオン電池

今後、同社ではデジタルカメラだけでなく、携帯オーディオやゲーム機器用途などへの積極的な拡販を進めていきます。

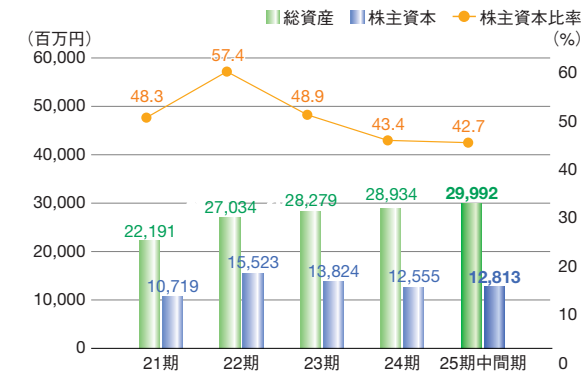
※当社と三菱電線工業(株)との合弁会社

連結財務ハイライト

売上高・経常利益



総資産・株主資本・株主資本比率



セグメント別営業概況

装置関連事業

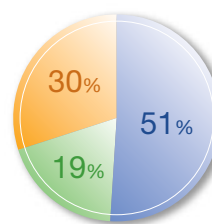
主な製品: 真空シール、石英ガラス加工製品など
売上高: 5,339百万円
営業利益: 692百万円

電子デバイス事業

主な製品: コンピュータシール、サーモモジュール、磁性流体など
売上高: 2,115百万円
営業利益: 316百万円

CMS事業

売上高: 3,328百万円
営業利益: 75百万円



「真空シール」は半導体向け設備投資が回復したことに加え、液晶・プラズマディスプレイ向け製造装置の設備投資拡大もあり、前年同期に比べて増収となり期初の計画を上回りました。

石英ガラス製品は、中国子会社への生産移管を進めてきた結果、市場の活性化に加え、中国製品を求める外資企業などから製品認定をいただいたことなどから販売が拡大し、前年同期に比べて大幅な増収となりました。

「コンピュータシール」は、エンドユーザーの次期ハードディスクモデルで流体動圧軸受モーターの採用が見送られたため、需要を確保し計画を上回る結果となりました。

「サーモモジュール」は自動車や半導体、バイオ向け用途が好調に推移し、計画を上回りました。磁性流体はカーオーディオスピーカー向けが堅調に推移し、計画を達成しました。

当該事業は契約により受託した他社製品を製造する事業です。製品については多岐にわたり、また顧客との守秘義務契約上から詳細な記述はできませんが、開示可能な受託品名としては、シリコンウエーハ加工、工作機械製造、装置部品洗浄などです。

シリコンウエーハ加工の本格稼働により大幅な増収となり、装置部品洗浄では中国へ進出したLSI(集積回路)メーカーなどへ営業を積極的に行なった結果、認定獲得が進み受注に至りました。このほか、中国市場向けの工作機械製造も好調に推移しました。

上記売上高はセグメント間の内部売上高を含みます。

中間連結貸借対照表

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	第25期中間期	第24期中間期	第24期
	平成16年9月30日現在	平成15年9月30日現在	平成16年3月31日現在
資産の部			
流動資産	12,735,336	9,685,495	11,976,148
現金及び預金	2,973,452	2,336,087	3,123,532
受取手形及び売掛金	5,261,784	3,542,552	4,298,715
たな卸資産	3,037,798	2,969,302	2,791,211
その他	1,624,658	947,670	1,903,056
貸倒引当金	△162,357	△110,118	△140,366
固定資産	17,257,572	18,389,660	16,958,839
有形固定資産	11,156,329	11,576,844	10,622,228
建物及び構築物	3,425,943	3,795,614	3,234,817
機械装置及び運搬具	3,630,709	3,677,323	3,445,614
工具器具備品	1,033,021	1,108,835	963,851
土地	2,601,404	2,681,272	2,602,123
建設仮勘定	465,248	313,798	375,822
無形固定資産	2,450,896	2,987,387	2,644,422
営業権	1,747,687	1,919,757	1,715,967
連結調整勘定	199,427	437,256	409,980
その他	503,781	630,373	518,474
投資その他の資産	3,650,347	3,825,429	3,692,188
投資有価証券	1,315,873	1,646,563	1,643,236
その他	2,364,970	2,196,818	2,071,397
貸倒引当金	△30,496	△17,952	△22,446
資産合計	29,992,909	28,075,156	28,934,988

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	第25期中間期	第24期中間期	第24期
	平成16年9月30日現在	平成15年9月30日現在	平成16年3月31日現在
負債の部			
流動負債	10,738,650	8,771,023	9,253,967
支払手形及び買掛金	2,377,856	1,071,011	1,889,214
短期借入金	3,768,706	3,212,464	3,197,265
一年内返済予定長期借入金	2,361,409	2,420,455	2,401,786
賞与引当金	136,209	100,938	107,394
その他	2,094,468	1,966,154	1,658,307
固定負債	6,394,641	5,858,856	7,101,323
転換社債型新株予約権付社債	1,776,643	—	1,870,150
社債	—	566,055	—
長期借入金	4,448,125	5,103,446	5,053,481
退職給付引当金	29,099	30,344	26,609
役員退職慰労引当金	110,049	100,649	105,600
その他	30,722	58,360	45,482
負債合計	17,133,291	14,629,880	16,355,291
少数株主持分			
少数株主持分	45,801	53,800	24,479
資本の部			
資本金	5,871,661	5,824,907	5,824,907
資本剰余金	6,747,159	6,700,406	6,700,406
利益剰余金	615,351	438,521	293,249
その他有価証券評価差額金	117,204	116,127	210,429
為替換算調整勘定	△377,447	471,593	△313,692
自己株式	△160,112	△160,082	△160,082
資本合計	12,813,816	13,391,475	12,555,217
負債、少数株主持分及び資本合計	29,992,909	28,075,156	28,934,988

中間連結損益計算書

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	第25期中間期	第24期中間期	第24期
	平成16年4月1日から平成16年9月30日まで	平成15年4月1日から平成15年9月30日まで	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで
売上高	10,783,567	6,824,934	15,000,439
売上原価	7,366,197	4,678,127	10,218,908
売上総利益	3,417,370	2,146,807	4,781,531
販売費及び一般管理費	2,353,904	2,129,825	4,166,435
営業利益	1,063,466	16,981	615,095
営業外収益	236,226	92,808	179,074
営業外費用	359,403	376,931	972,150
経常利益	940,289	△267,141	△177,980
特別利益	72,263	55,924	103,120
特別損失	282,726	331,884	484,782
税金等調整前中間(当期)純利益	729,826	△543,101	△559,642
法人税、住民税及び事業税	243,682	△42,860	24,125
法人税等調整額	6,513	△620	61,393
少数株主利益	21,438	340	72
中間(当期)純利益	458,191	△499,962	△645,234

中間連結剰余金計算書

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	第25期中間期	第24期中間期	第24期
	平成16年4月1日から平成16年9月30日まで	平成15年4月1日から平成15年9月30日まで	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで
資本剰余金の部			
資本剰余金期首残高	6,700,406	6,700,406	6,700,406
資本剰余金増加高			
増資による新株発行	46,753	—	—
資本剰余金中間期末(期末)残高	6,747,159	6,700,406	6,700,406
利益剰余金の部			
利益剰余金期首残高	293,249	1,075,557	1,075,557
利益剰余金増加高			
中間純利益	458,191	—	—
利益剰余金減少高			
中間(当期)純損失	—	499,962	645,234
配当金	136,089	137,073	137,073
利益剰余金中間期末(期末)残高	615,351	438,521	293,249

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	第25期中間期	第24期中間期	第24期
	平成16年4月1日から平成16年9月30日まで	平成15年4月1日から平成15年9月30日まで	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,070,927	701,332	1,126,169
投資活動によるキャッシュ・フロー	△953,917	△1,293,716	△2,229,362
財務活動によるキャッシュ・フロー	△251,288	69,731	1,366,799
現金及び現金同等物に係る換算差額	△15,802	46,736	47,921
現金及び現金同等物の増加額	△150,080	△475,916	311,528
現金及び現金同等物の期首残高	3,123,532	2,812,004	2,812,004
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	2,973,452	2,336,087	3,123,532

中間個別貸借対照表

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	第25期中間期 平成16年9月30日現在	第24期中間期 平成15年9月30日現在	第24期 平成16年9月31日現在
資産の部			
流動資産	6,550,146	5,890,357	6,989,030
現金及び預金	727,319	881,605	799,939
受取手形及び売掛金	2,275,319	2,020,600	2,283,708
その他	3,547,508	2,988,151	3,905,382
固定資産	16,277,120	15,281,613	15,851,642
有形固定資産	2,978,413	3,068,711	3,013,718
無形固定資産	7,572	10,818	8,618
投資その他の資産	13,291,134	12,202,083	12,829,305
資産合計	22,827,267	21,171,970	22,840,673
負債の部			
流動負債	5,958,227	4,972,627	5,365,903
支払手形及び買掛金	1,262,909	868,606	1,280,416
短期借入金(※)	3,470,284	3,313,964	3,007,984
その他	1,225,034	790,056	1,077,502
固定負債	3,801,411	3,287,051	4,354,349
転換社債型新株予約権付社債	1,776,643	—	1,870,150
長期借入金	1,915,460	3,185,744	2,378,642
その他	109,307	101,307	105,557
負債合計	9,759,638	8,259,678	9,720,252
資本の部			
資本金	5,871,661	5,824,907	5,824,907
資本剰余金	6,508,147	6,461,394	6,461,394
利益剰余金	730,728	668,053	782,945
其他有価証券評価差額金	117,204	118,018	211,255
自己株式	△160,112	△160,082	△160,082
資本合計	13,067,629	12,912,292	13,120,420
負債・資本合計	22,827,267	21,171,970	22,840,673

※1年以内返済予定長期借入金を含む

中間個別損益計算書

(単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	第25期中間期 平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで	第24期中間期 平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで	第24期 平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで
売上高	4,625,413	3,265,543	7,398,281
売上原価	3,340,504	2,291,340	5,335,076
売上総利益	1,284,909	974,202	2,063,205
販売費及び一般管理費	1,017,541	962,546	1,958,092
営業利益	267,367	11,656	105,112
営業外収益	101,788	160,130	412,311
営業外費用	72,623	185,128	339,903
経常利益	296,533	△13,341	177,520
特別利益	25,090	45,043	92,685
特別損失	156,398	193,519	235,526
税引前中間(当期)純利益	165,224	△161,818	34,679
法人税、住民税及び事業税	81,352	△65,639	△2,049
法人税等調整額	—	—	18,015
中間(当期)純利益	83,872	△96,178	18,713
前期繰越利益	645,944	692,281	692,281
利益準備金取崩額	—	70,147	70,147
中間(当期)未処分利益	729,816	666,250	781,142

会社概要 (平成16年9月30日現在)

商号	株式会社フェローテック
(英文表記)	Ferrotec Corporation
設立	昭和55年9月27日
資本金	58億7,100万円
決算期	3月31日
従業員数	119名
事業所	本社 〒104-0031 東京都中央区京橋1-4-14 関西営業所 〒541-0053 大阪市中央区本町4-6-17 本町KGビル8F 千野ケニカセンター 〒289-2131 千葉県八日市場市みどり平1-4

役員 (平成16年9月30日現在)

代表取締役社長	山村 章
常務取締役	賀 賢漢
取締役	福井 徹
取締役	橋 誠
取締役	濱本 浩志
取締役	谷津 信行
取締役	椿 勲
常勤監査役	松井 宏之
監査役	中元 紘一郎
監査役	木下 隆博

グローバルネットワーク (平成16年9月30日現在)

- 国内
- 株式会社フェローテック(東京)
 - 株式会社フェローテックオーツ(大阪)
 - 株式会社フェローテック精密(岩手)
 - 株式会社フェローテックシリコン(東京)
 - ダイヤセルテック株式会社(東京)
 - アリオンテック株式会社(山形)
- 海外
- 杭州大和熱磁電子有限公司(中国杭州市)
 - 杭州日磁科技工業園産業開発有限公司(中国杭州市)
 - 上海申和熱磁電子有限公司(中国上海市)
 - Ferrotec Corporation Singapore Pte. Ltd.(シンガポール)
 - Ferrotec (USA) Corporation(アメリカ)
 - Ferrotec GmbH(ドイツ)
 - Ferrotec Ltd.(イギリス)
 - Ferrotec S.A.(スペイン)
 - Ferrotec S.R.L.(イタリア)
 - Ferrotec SARL(フランス)
 - Ferrotec Engineering SRL(ルーマニア)

